

ペットボトルに再生推進

神河など3町 伊藤園と協定

神河、市川、福崎の3町は4日、家庭ごみのペットボトルを原料化し、再び飲料用に製造する「水平リサ

イクル」を進めていくための連携協定を、飲料大手「伊藤園」（東京都）などと結んだ。4月から事業を始める。

ペットボトルに再生すると、石油由来の原料からペットボトルを製造するよりも二酸化炭素の排出量が5割以上削減できるという。

3町でつくる中播北部行政事務組合によると、従来は分別収集したペットボトルを業者へ売却しており、衣

ペットボトル再利用に向け協定を結んだ山名管理者（中央）ら（神河町で）
中播北部行政事務組合提供



服の繊維やシートなどに再生されていた。

協定は、3町と組合、伊

藤園、ペットボトル製造・飲料製造「キンキサイイン」の6者で締結。回収されたペットボトルを粒状に砕いた原料を、キンキサイインがペットボトルに再生して飲料を詰め、伊藤園が関西地域で販売する。

この日、神河町内で関係者が集まり、協定に署名した。組合管理者の山名宗悟・神河町長は「脱炭素社会に貢献できる。ペットボトルの全量回収に向けて啓発を進めていきたい」と話した。水平リサイクルについて、姫路市も昨年8月、伊藤園などと協定を結んでいる。